

黒の背後にあるもの

03 What is Behind The Color Black

「黒」という色について考えたとき、あなたはどんな言葉を連想しますか？「強さ」「重々しさ」「闇」「厳格さ」。私達の生活では状況に応じて選択された「黒」を見かけることがあります。例えば、服装にしても、フォーマルな装い、裁判官が着る法衣、僧衣などには「黒」が選ばれています。どうして赤や青や緑ではなく「黒」が選ばれているのでしょうか。たしかに「黒」からは何か共通の印象が感じられます。いったいこの共通認識はどこからきているのでしょうか。京都紋付は大正四年から黒だけを染め続けてきた黒染めの会社です。染めの黒さを競う黒紋付の世界で磨き抜かれた染色技術は世界でもっとも黒い黒染めを可能にしてきました。一見同じように見える黒紋付の黒ですが、実は「黒」まで染めあげる過程で必要な下染めの種類（草木染め、泥染めなど）によって様々な色合いの黒があり、なかには文化的背景を持つ素材で下染めをすることでさまざまな意味を持たせた黒があります。それらは最終的に辿り着く「黒」という色の背後に潜む精神的な皮膜だといえるでしょう。

昔の人達はその豊かな＜創造力＞と＜直感＞によって「黒」という色から様々な意味や解釈を見出し、またそこで見出したものを今度は生活に取り込むことで、自分達の世界を構築し理解する手がかりにしてきました。その中で培われた文化は、科学によって多くのことが明らかになりつつある現代においても今だ色褪せる事なく、魅力的な光を放ちながら静かに私達の生活に溶け込んでいます。

私達がつくり出したいのは実質的な染めの「黒さ」だけではありません。それは黒紋付に袖を通した時に感じるもの、私達の背筋を糺し、気持ちを律するなにか不思議な力です。それは「黒紋付」の背後にある文化、「黒」にまつわる私達の文化そのものなのです。京都紋付は究極の「黒さ」を追求しながらもその背後に文化をしっかりと染め付ける事ではじめて、長く着続けても深みのある「黒」、精神をも内包する「黒」が生まれるのだと考えています。

この冊子では「黒」の背後にあるものをいろんな角度から探っていきます。伝統的な「黒」もあれば身体的な「黒」もあります。あえてさまざまな黒をもちこんだのは、黒の文化が懐古的な視点だけにあてはまるものではないからです。「黒」にまつわる由来を知る事で、これまでなんとなく見ていた「黒いもの」が眼に見えない輝きを放ちだすのを感じていただければと思います。